

---

# 紳士？いいえ、ただの変態です

朔羅

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

紳士？いいえ、ただの変態です

### 【Nコード】

N1714Y

### 【作者名】

朔羅

### 【あらすじ】

ちよっぴり変わってる主人公と片思いしてる女の子の日常。

短いので、さくっと読んで頂けたら幸いです。

皆様、ごきげん麗しい。

今日も素敵な朝だね。

「その君もそう思わないか!？」

びしっと指をさした先には、美しい貴婦人が座っている。

僕の隣の席の彼女は眼鏡が似合う、知性溢れる女性だ。

「相変わらず、朝から頭がいかれてるわね」

「君は相変わらず、美しいね」

「…けっ」

僕の言葉に彼女はおきに召さなかったようで、芋虫潰したような顔で僕に冷たい視線を向けて、すぐに読んでいた本に視線を戻した。

「おい、そろそろ朝のHR始めていいかあ？」

「どうぞ、ご自由に」

僕は彼女を眺めながら答えた。

どうやら、先生が入ってくるのが気付かないくらい彼女との会話に夢中になっていたようだ。

「おい、鈴木じろじろ見るな」

「アンジェリカ、いつも言ってるじゃないか。僕の話は、ジャックと呼んでくれたまえ」

「誰がアンジェリカだ!あたしは斎藤でお前は鈴木正太郎!」

「怒った顔も綺麗だね、アンジェリカ…」

眼鏡越しに見える奥二重の猫目。

肩ぐらいほどあるさらさらな黒髪。

僕の愛する人は、どこもかしこも美しくすぎる。

「人の話を聞けー!!」

これが二人の日常。

END

(後書き)

変態紳士が書きたかっただけです( ^ o ^ ) /

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1714y/>

---

紳士？いいえ、ただの変態です

2011年11月3日03時05分発行